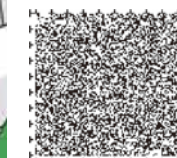
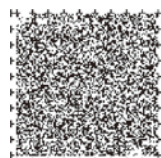


第10次 福岡市基本計画

FUKUOKA CITY MASTER PLAN

概要版

FUKUOKA CITY



はじめに

総合計画は、福岡市の将来の健全な発展のために策定する総合的な計画のことで、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成されています。

また、この総合計画のもと、各行政分野において分野別の計画等を策定しています。

総合計画

基本構想

目標年次無し

長期的にめざす都市像

- 1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市
- 2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市
- 3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
- 4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

基本計画

10年間

基本構想に掲げる都市像の実現に向けた方向性をまちづくりの**目標や施策**として総合的・体系的に示した長期計画

【第10次基本計画】2025年度～2034年度

実施計画 (政策推進プラン)

4年間

基本計画を推進するにあたって、福岡市が取り組む**具体的な事業**を示した中期計画

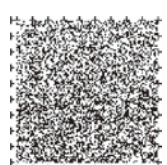
【第1次政策推進プラン】2025年度～2028年度

分野別の計画等

計画の 着実な 推進

基本計画の推進にあたっては、「政策推進プラン」で具体的な事業を示すとともに、毎年度の予算編成において、その必要性や緊急性を検討しながら実施事業の予算化を行うことで、社会経済情勢の変化や不測の事態にも的確に対応していきます。

また、計画の進行管理として、基本計画の分野別目標ごとに市民意識の推移を把握するとともに、政策推進プランの中で各事業の進捗状況を定性的、定量的に評価し、目標の実現に向け、PDCAサイクルを回していきます。



1 計画策定の趣旨

福岡市の沿革

福岡市は大陸に近く、**二千年を超えるアジアとの交流**の中で、多様な人材や、豊かな自然と充実した都市機能がコンパクトに整った都市空間など、様々な財産を築き上げてきました。

1889年に市制が施行された当時、人口規模は、九州で3番目の都市でしたが、その後、国の出先機関や企業の支店、大学などの集積が進むとともに、陸・海・空の広域交通の拠点機能を高め、**九州の中核を担う**ようになっていきました。

これまでの取組み

先人たちの長年にわたる尽力によって築かれた、「人」と「環境」という強みを礎として、子育てしやすい環境づくりや教育環境の充実、安全・安心なまちづくりなどに力を入れつつ、観光・MICEの振興や都心部の機能強化、スタートアップ都市づくりなど、「都市活力」を向上させるための施策に積極的に取り組み、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」をめざして、まちづくりを進めてきました。

この間、**人口は増え続け、企業の立地や創業が進み、市税収入は高い水準で推移**するなど、福岡市は、**元気なまち、住みやすいまち**として評価されています。

社会経済情勢の変化

一方で、世界に目を向けると、**地球規模での気候変動の深刻化**が人々の生活環境に大きな影響を及ぼし、脱炭素の機運が高まるとともに、Well-beingやダイバーシティ&インクルージョンなどの**新たな価値観が重視され**、テクノロジーが飛躍的に進歩するなど、社会経済情勢は大きく変化しています。

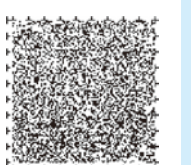
また、日本国内では、**少子高齢化の進展による労働人口の減少**、不安定な海外情勢等による**原油価格や物価の高騰**などが大きな課題となっています。

福岡市の状況

福岡市においても、将来的な人口減少や単独世帯の増加等を見据え、地域コミュニティの活性化や福祉の充実、高付加価値で国際競争力が高いビジネス環境の創出など、あらゆる分野において、**持続可能なまちづくり**に取り組んでいく必要があります。

こうした中、福岡市は、これらの課題に的確に対応しながら、社会の変化と多様な価値観をしなやかに取り入れ、九州、日本全体を牽引する役割を担うとともに、世界とつながり、アジアの中で存在感のある都市をめざして、挑戦し続けることが求められています。

このような認識のもとで、**今後の都市経営の方向を明らかにし、新たな時代にふさわしい基本計画を策定**するものです。



2 都市経営の基本戦略

①「生活の質の向上」と「都市の成長」の持続的な好循環を創り出す

福岡市の「住みやすさ」に磨きをかけて市民生活の質を高め、質の高い生活が人と経済活動を呼び込むことで都市が成長し、その成長の果実によりさらに生活の質を高めていきます。

②多様な人材が育ち、集い、チャレンジできる環境をつくる

福岡市は、古来、国内外から多くの人々が訪れ、様々な人達が出会い、交流する都市として発展を遂げてきました。現在でも人口が増え続け、若者が多く、国内外からチャレンジ精神のある多様な人材が集まっています。こうした福岡市の個性や強みを生かして、多様な人材が育ち、国内外から集い、互いに交流しながら、誰もが将来に向かってチャレンジできる環境をつくりまします。

3 分野別目標

基本構想に掲げる都市像の実現に向けて、人やまちをどのような状態とするかを8つの目標として掲げ、その実現に向けた取組みの方向性を30の施策として示しています。

持続的な好循環

生活の質の向上

目標1 一人ひとりが心豊かに暮らし、自分らしく輝いている

- 施策1-1 多様な市民が輝くユニバーサル都市・福岡の推進
- 施策1-2 一人ひとりが健やかで心豊かに暮らせる社会づくり
- 施策1-3 すべての人が安心して暮らせる福祉の充実

目標2 すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長している

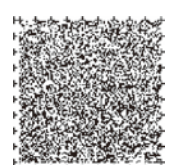
- 施策2-1 社会全体で子どもを見守り、子どもを望む人が安心して生み育てられる環境づくり
- 施策2-2 困難を抱える子どもや若者を支え、誰もが健やかに成長できる社会づくり
- 施策2-3 自ら学び続け、他者を尊重し、協働できる子どもの育成
- 施策2-4 将来に夢や希望を抱き、意欲と志を持ってチャレンジする人材の育成

目標3 地域の人々がつながり、支え合い、安全・安心に暮らしている

- 施策3-1 つながりと支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化
- 施策3-2 生活の利便性が確保された地域のまちづくり
- 施策3-3 安全で快適な生活基盤の整備と災害に強いまちづくり
- 施策3-4 日常生活における安全・安心の確保と地域福祉の推進

目標4 人と自然が共生し、身近に潤いと安らぎが感じられる

- 施策4-1 都市と自然が調和したコンパクトで個性豊かなまちづくり
- 施策4-2 花や緑などによる潤いや安らぎを感じるまちづくり
- 施策4-3 持続可能で未来につながる脱炭素社会の実現
- 施策4-4 循環経済の確立に向けた資源循環等の推進



都市の成長

目標5 磨かれた魅力に人々が集い、活力に満ちている

- 施策5-1 観光資源の磨き上げと戦略的なプロモーションの推進
- 施策5-2 博多・福岡の歴史・文化を生かした観光振興
- 施策5-3 交流がビジネスを生むMICEの受入環境の形成
- 施策5-4 人々を魅了するエンターテインメント都市づくり

目標6 都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれている

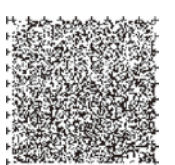
- 施策6-1 都市活力を牽引する都心部の機能強化と魅力向上
- 施策6-2 様々な都市機能が集積した魅力・活力創造拠点づくり
- 施策6-3 公共交通を主軸とした持続可能な総合交通体系の構築
- 施策6-4 成長分野の企業や本社機能の立地の促進

目標7 チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化している

- 施策7-1 地場中小企業の競争力強化などによる地域経済の活性化
- 施策7-2 農林水産業とその関連ビジネスの振興
- 施策7-3 新たな価値の創造とスタートアップ都市づくり
- 施策7-4 産学官民が連携した知識創造型産業などの振興

目標8 アジアのモデル都市として世界とつながり、国際的な存在感がある

- 施策8-1 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり
- 施策8-2 国際的なビジネス交流の促進とグローバル人材にも住みやすいまちづくり
- 施策8-3 国際貢献・国際協力の推進と国際会議の誘致



4 空間構成目標

市民生活や都市活動の場となる都市空間を、どのように形成し、どのように利用するかを目標として示しています。

<めざす姿>

- 海や山に囲まれた地形的な特徴を生かし、都心部を中心にコンパクトな市街地が形成され、**都市的魅力と豊かな自然環境が調和**し、安全・安心な暮らしのもと、市民が日常的にそれを享受しています。
- 福岡市の都市活力を牽引する「都心部」、都市の成長を推進する「魅力・活力創造拠点」、界限性のある街空間の中で市民生活が営まれる「広域拠点」「地域拠点」「日常生活圏」、豊かな自然環境を継承する「農山漁村地域」など、それぞれのエリアの個性や強みが生かされ、交通ネットワークにより移動の円滑性が確保された「**コンパクトでコントラストのある都市**」が実現しています。



5 区のまちづくりの目標

市民及び様々な主体が、地域のまちづくりに取り組むために共有する目標として、7区に共通する施策の方向性を示すとともに、行政区ごとにまちづくりの目標を示しています。各区の特徴的な課題と取組みの方向性は次のとおりです。

東区



- 7区最大の人口を有する一方、地域によっては人口が減少しており、それぞれの地域の実情に応じて、生活交通の確保など、きめ細かな支援を進めます。
- 豊かな自然、歴史、文化芸術を東区の魅力として磨き上げ、住む人が愛着を持ち、多くの人が訪れる賑わいのあるまちづくりを進めます。

博多区



- 単身世帯や転入者が多い特徴を踏まえ、高齢者や子育て世帯などの孤立を防ぎ、誰一人取り残さない福祉サービスの充実を図ります。
- 神社仏閣などの魅力発信や、伝統行事の振興・継承を図るとともに、経済活動の活性化、都市機能の充実等により、住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

中央区



- 共同住宅、単身世帯の割合が高く、転出入も多いため、地域コミュニティの希薄化等が課題となっており、それぞれの地域の課題に応じたきめ細かな支援を行います。
- 都心部の賑わいや屋台などの食文化、多様な施設などの魅力を生かし、個性があふれ、多くの人々が住み、働き、訪れたいまちをめざします。

南区



- 夜間人口が多い「くらしのまち」で、西部・南部地域を中心に高齢化が進んでおり、地域コミュニティへの支援や公共交通機関の利便性向上などに取り組めます。
- 大学・短大などの多様な主体、油山や那珂川、鴻巣山などの身近な自然を生かし、地域の魅力向上に取り組めます。

城南区



- 高齢化率が7区で最も高く、高齢者の社会参加の促進や健康寿命の延伸などに取り組むとともに、お互いに見守り支え合う地域づくりを進めます。
- 大学などと連携して、社会課題の解決や地域コミュニティの活性化を図るとともに、将来を担う人材の育成を支援します。

早良区



- 北部では、西新・藤崎・シーサイドももち地区の機能充実を図るとともに、大学や企業などの集積を生かし、地域と連携した活力あるまちづくりを進めます。
- 中部では、ともてらす早良や地下鉄七隈線などを生かし、住民の交流が広がり、快適で便利なまちづくりを進めます。
- 南部では、脊振山系などの豊かな自然を生かし、人々が集う憩いのまちづくりを進めるとともに、公共交通の維持・確保に取り組み、地域住民や来訪者の利便性向上を図ります。

西区



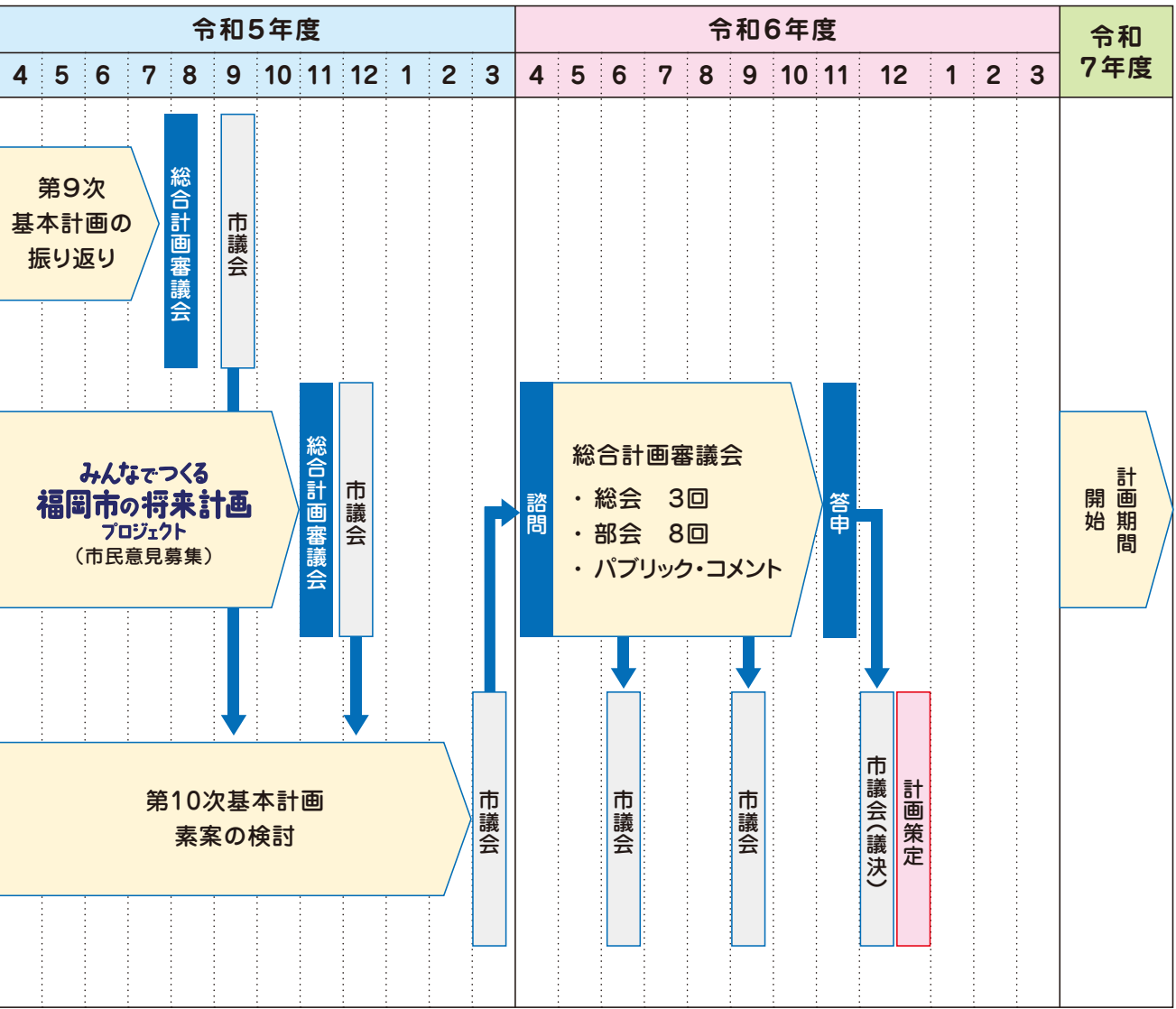
- 自然、歴史、文化などの資源を「西区の宝」と位置づけ、次世代に継承していくとともに、離島や市街化調整区域において、農業・漁業の活性化など、地域振興を図ります。
- 大学の人材と住民の連携・交流を促進し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、多様な人々が尊重され、個性を発揮できるまちをめざします。

6 参考資料

(1) 計画策定の経緯

第10次基本計画は、第9次基本計画の振り返りや、市民の皆様からのご意見を募集した「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」の結果を反映するとともに、48名の有識者で構成される「総合計画審議会」及び「市議会」での審議を経て策定しました。

多くの市民の皆様に参加していただいた「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」の主な実施結果は次ページのとおりです。



みんなでつくる
福岡市の将来計画
プロジェクト

主な実施結果

オンラインアンケート

スマートフォンなどから、いつでも誰でも回答できるアンケートを実施しました。

- あなたにとっての幸せな未来のために特に大切なこと (8,242件)
 - ・ 健康的な生活ができること 84.7%
 - ・ 災害や犯罪などの不安が少ないこと 75.0%
 - ・ 誰もが思いやりをもち、自分らしく生きられる社会であること 66.4% など
- 福岡市や自分自身の未来についての自由意見 (3,315件)
 - ・ 子ども、教育関連 652件
 - ・ ユニバーサルデザイン、健康、福祉関連 504件
 - ・ 交通関連 445件
 - ・ 経済振興、都心部関連 299件
 - ・ 防災、都市基盤関連 161件
 - ・ 文化芸術、スポーツ関連 160件
 - ・ 環境、自然関連 158件
 - ・ 防犯、モラル・マナー関連 155件 など

ワークショップ

高校や大学、市民サークルなどに市職員が参加し、参加者自身や福岡市の未来について一緒に考え、語り合いました。(45回開催、1,278人参加)

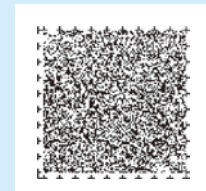
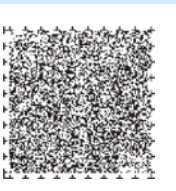
小中学校での意見募集

約12万人の小中学生を対象にアンケートを実施し、その結果を実行委員会の小中学生がとりまとめ、「福岡こども未来サミット」で4つの都市像を発表しました。
投票の結果、「自然にやさしく魅力あふれるまち」が最も共感を集めました。

子どもたちが
発表した
4つの都市像

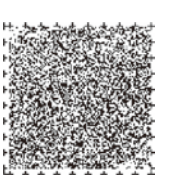
- ・ 自然にやさしく魅力あふれるまち
- ・ 誰もが便利で暮らしやすいまち
- ・ 安全で安心なまち
- ・ 子どもから大人まで笑顔で元気なまち

最も共感を集めた

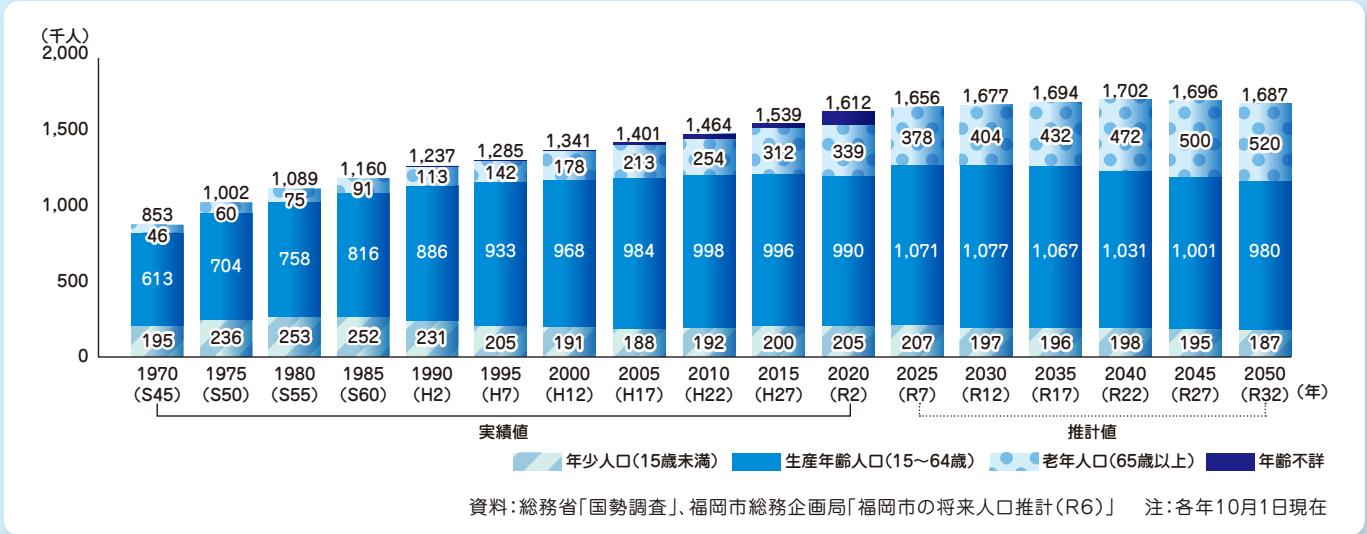


(2) 福岡市のあゆみ

	西 暦	主な出来事
古代・近世	紀元前4世紀頃～	板付遺跡
	紀元前2～紀元前1世紀	吉武高木遺跡
	57年	奴国王が後漢に朝貢し「漢委奴国王」の金印を授受
	536年	大和朝廷が那の津の口に「那津官家」を設置
	7世紀後半～	筑紫館(後の鴻臚館)を設置
	11世紀後半～12世紀	貿易拠点が鴻臚館から博多へ移行
	1274年、1281年	文永の役・弘安の役(元寇防塁を築く)
	1401年	博多商人肥富の勤めにより足利義満が遣明船を派遣し、日明貿易が開始
	1587年	豊臣秀吉、博多の町割りを命じる
	1601～1607年	福岡城築城
近代以降	1889年(明治22年)	福岡市の誕生
	1899年(明治32年)	博多港が対外貿易港として開港
	1905年(明治38年)	博多～釜山 定期航路開設
	1911年(明治44年)	九州帝国大学の創立
	1936年(昭和11年)	雁の巣国際飛行場開設
	1945年(昭和20年)	福岡大空襲、博多港が海外引揚援護港に指定される
	1951年(昭和26年)	博多港が最重要港湾に指定される、福岡空港の民間空港化
	1963年(昭和38年)	福岡市民会館開館
	1972年(昭和47年)	政令指定都市となり、5区が誕生
	1975年(昭和50年)	市の人口が100万人突破、山陽新幹線が博多まで開通
	1978年(昭和53年)	渇水のため給水制限(287日間)
	1979年(昭和54年)	福岡市美術館開館
	1980年(昭和55年)	福岡都市高速道路開通
	1981年(昭和56年)	地下鉄空港線開業
	1982年(昭和57年)	行政区の再編成により7区制開始
	1983年(昭和58年)	筑後川受水開始
	1989年(平成元年)	アジア太平洋博覧会「よかトピア」開催
	1990年(平成 2年)	「アジア太平洋都市宣言」制定、アジアマンス開幕、福岡市博物館開館
	1993年(平成 5年)	博多港国際ターミナル開設
	1995年(平成 7年)	ユニバーシアード福岡大会開催、マリンメッセ福岡開館
	1996年(平成 8年)	福岡市総合図書館が開館
	1999年(平成11年)	福岡都市高速道路が太宰府ICへ接続、福岡アジア美術館開館
	2003年(平成15年)	福岡国際会議場開館
	2004年(平成16年)	町世話人廃止、自治協議会制度導入
	2005年(平成17年)	地下鉄七隈線開業、福岡県西方沖地震発生、アイランドシティのまちびらき、九州大学伊都キャンパスへの移転開始
	2011年(平成23年)	九州新幹線鹿児島ルート全線開通
	2012年(平成24年)	福岡都市高速道路環状線が完成
	2013年(平成25年)	市の人口が150万人突破
	2014年(平成26年)	国家戦略特区に指定、福岡市立こども病院移転
	2017年(平成29年)	福岡市科学館開館
	2018年(平成30年)	九州大学移転完了、総合体育館開館
	2019年(令和元年)	福岡市美術館リニューアルオープン、G20 財務大臣・中央銀行総裁会議開催
	2020年(令和 2年)	新型コロナウイルス感染症発生
	2021年(令和 3年)	福岡都市高速道路アイランドシティ線開通、マリンメッセ福岡B館開館
	2023年(令和 5年)	地下鉄七隈線延伸開業



(3) 福岡市の人口



(4) 地域別社会移動の状況

